

開催にあたって

文化13年(1816)の春、念仏行者徳本が念仏教化のため信濃にやって来ました。すでに江戸で庶民から大名諸侯に至るまで支持され、生き仏とも称されていた徳本を、当時の人びとはその言葉通り、この世に現われた阿弥陀如来であるかのように熱狂的に受け入れ、各地に南無阿弥陀仏と刻んだ念仏塔や念仏講が次々と作られていきました。それはまるで流行神の様相を呈していたと言ってよいでしょう。

では、信濃の人々を熱狂させた徳本とはどのような人物で、どんな生涯を送ったのでしょうか？またその教えとはどのようなものだったのでしょうか？

この展示では徳本の生地である和歌山や、各地の所縁のある寺院に伝わる資料から、彼の生涯を辿るとともに、徳本が半年近くもかけて布教に歩いた県内の足跡を、残された資料から紹介し、徳本の信濃巡錫がこの地に与えた念仏信仰の影響を探ります。

最後になりましたが、この展示にあたってご協力いただきました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

令和2年9月19日

長野市立博物館長

目次

プロローグ 〈不思議な文字が刻まれた石塔〉……	3
I 念仏行者徳本とは何者？ ……	7
II 徳本以前の念仏流行 ……	51
III 生き仏徳本行者の信濃巡錫 ……	69
IV 徳本以後の念仏信仰 ……	115
資料翻刻 ……	126
徳本行者一行の足取り ……	136
展示資料一覧 ……	142
主な参考文献・謝辞 ……	145

凡例

- ・この図録は令和2年9月19日から11月3日までを会期とする第63回特別展の展示図録である。
- ・図版の作品番号は展示番号と一致するが、必ずしも展示の順序とは一致しない。
- ・作品保護の点から会期中展示替えを行うため、掲載資料が展示されていない場合がある。
- ・掲載写真の一部は次の機関よりご提供いただいた。
有田市郷土資料館(No.3)、西宮市立郷土資料館(No.20)、善光寺大勸進(P.64上図)
- ・また掲載写真は一部、尚永堂(No.4)及びスタジオHi-Bushに撮影を委託した。(No.42~44、No.46)
- ・資料所蔵者の表記については敬称を省略した。
- ・本図録の執筆、編集は当館学芸員の細井雄次郎が担当し、館員がこれを補助した。
- ・表紙写真 徳本曼荼羅(無常院蔵)〈一部〉
裏表紙写真 唐沢阿弥陀寺の徳本名号石